



# AIYES 通信

横浜スペイン協会会報

発行・横浜スペイン協会事務局

## 2007年定時総会開催のご案内

2007年の定時総会を下記の通り開催いたします。  
総会終了後、親睦会を行います。会員の皆様ぜひご出席ください。

記

日時：2007年5月20日（日）14：00  
会場：驛の食卓（うまやの食卓）（JR桜木町駅より徒歩5分）  
横浜市中区住吉町6-68-1 横浜関内地所ビル2F  
TEL 045-641-9901 <http://www.umaya.com/>  
議題：1. 2006年度活動報告と決算  
2. 2007年度事業計画と予算案  
3. その他  
親睦会参加費：2,000円



驛の食卓（うまやの食卓）

## 見事に咲きました—スペイン大使館の桜—



スペイン大使館から3月下旬のこと、当協会が植樹した桜がきれいに咲いたとの連絡がありました。

そこで早速この桜を見せていただくことになり、3月23日に数名の有志が大使館を訪れました。

大使館の庭には、公邸前に1本、公邸裏3本の合計4本が植樹されていますが、人間にも個性があるように、植物にも個性があり、公邸前の1本はちょうど満開、公邸裏の3本はそれぞれすでに葉桜になったもの、7分咲きのもの、まだ小さなつぼみのものと、さまざまでした。

大使館側では、大使夫人と、キルクパトリック文化担当参事官がわれわれの訪問を歓迎してくださいました。

当協会では、桜を通してスペインとの友好をはかることをひとつの目的としていますが、この目的がひとつステップアップしたとあって良い一日でした。

## 新年会にぎやかに開催

日時：2007年1月23日（火）17：00～20：00  
会場：驛の食卓（うまやの食卓）横浜市中区住吉町6-68-1 TEL 045-641-9901  
参加者：27名

今回の会場となった「驛の食卓」は、横浜で唯一ビールを手作りしているビヤホール・レストランでJR桜木町駅より徒歩5分、運河を渡る陸橋を降りるとすぐ目の前にありました。

ブルワリーとビヤホールを兼ねたレストランは、昔懐かしい雰囲気の内装で、新年会用に用意された2階の部屋には壁面に一面の鏡がはめ込まれ、ワインの樽がそれに反射して広いワイナリーのような錯覚を覚える場所でもありました。

下山会長の挨拶に続いて、新年会計画担当の上野淑子理事の乾杯で、和やかな会食に移りました。

まず最初にデカンタで全員に供されたのは「ドライハニー」のビールで、蜂蜜のほのかな甘い香りとすっきりしたのどごしのビール、続いて「横浜クラシカル」。これは明治時代、横浜に初めて上陸した当時と同じレシピで作られたホップの強いビールでした。8種類以上のレシピのビール総て自由にテイastingしてくださいと店のマネジャーが声をかけてくれましたが、皆さんどこまで試されましたか。

テーブルに運ばれてくるビールに合う様々なオードブルや料理をつまみながら歓談、気が付いたらすでに8時ということでお開きとなりました。

雰囲気の良い会場なので、5月の「総会と懇親会」はここで開催することになりました。(山崎宗城)

## \*\*\*\*\* スペイン・サロンへのお誘い \*\*\*\*\*

新しく会員になられた方々とその推薦者の方々は、ぜひスペイン・サロンにご出席されますようお願いいたします。

### ●2007年6月のスペイン・サロン

お待たせしました！皆さんからもう一度お話を伺いたいとの要望が多かった神奈川大学教授・岩根圀和先生に来ていただけることになりました。今回は趣向をかえて、「スペイン文学」についてお話いただく予定です。どうぞご期待ください。

日 時：2007年6月16日（土）13：30～15：30

場 所：県民サポートセンター15階／1501号室（横浜駅西口）

講 師：岩根圀和 神奈川大学スペイン語科教授

テーマ：「スペイン文学」

参加費：会員 1,000円 一般 1,200円

### ●2007年7月のスペイン・サロン

フリートークング<あれこれ情報・スペイン談議>です。最近のスペイン情勢、スペイン旅行、スペイン映画、音楽、文学等ホットな情報交換……。どうぞ写真や資料、CD、ビデオなんでもお持ち寄りください。みんなで楽しくスペインを語り合いましょう！

日 時：2007年7月21日（土）13：30～15：30

場 所：県民サポートセンター15階／1501号室（横浜駅西口）

参加費：会員・一般共 500円

## 歴史と文化を知るスペイン・サロン

### ●2007年3月のスペイン・サロン

「スペインのいろんな言葉、そしていろんなスペイン語」

講 師：木村琢也 清泉女子大学教授

日 時：2007年3月17日（土）14：00～16：00

会 場：横浜市民活動支援センター 4階 研修室II

NHKラジオスペイン語講座でおなじみの木村先生の講演とのことで、多くの参加者が集まり大盛況でした。木村先生の本来のご専門はかなり硬い音声学ですが、そのソフトなお声と何気なくさらっとおっしゃるユーモアで皆さんを終始笑いに引き込みながら、しっかり本題をまとめられて、魅力あるお話をお聞かせいただきました。

スペインでは、憲法にはっきり公用語はカスティーリャ語であること、そしてその他のスペイン諸語（カタルーニャ語、ガリシア語、バスク語など）もそれぞれの自治州内で、自治憲章の規定によって公用語とな

ることが明記されています。いろいろな例やエピソードを引き合いにその実態を示されました。例えばカタルーニャ語やガリシア語はカスティーリャ語と同じロマンス語系の言語ですので、似ているところもあるのですが、私達にとっては、それぞれかなり理解しづらい言語のように思われます。

映画「海を飛ぶ夢」(アレハンドロ・アメナーバル監督)の中でガリシア語と、カタルーニャ語が混じっている会話を聞きました。また、CDでカタルーニャ人のジュアン・マヌエル・セラーとアナ・ベレンの「愛の歌」も聞きました。なぜか前半カタルーニャ人のセラーがスペイン語(カスティーリャ語)で歌い、途中からアナ・ベレンがカタルーニャ語で、そして最後は二人でデュエットの歌でした。とても素敵な歌でしたが、歌詞を見ていてスペイン語からカタルーニャ語に変わると、読んでいて全然わからなくなります。でも、



▲ユーモアたっぷりの木村琢也先生

彼等は事も無く切り換えができるのですね。スペイン語(カスティーリャ語)を話しながら、それぞれの地方の言語にもこだわる人々。これらの言語はそこに生きている人の文化であり、アイデンティティであり、国の公用語のスペイン語(カスティーリャ語)とも共生し、切り替えもすぐできるということは、文化の多

様性を表わすことであると納得した思いでした。

バスク語の特異性にも触れたお話がありました。バスク語は日本語に似ていると言う人もいますが、Kori bakarri da(コリバカリダ)＝こればかりだ(日本語とおなじ意味)という番外編には笑ってしまいました。

スペイン語のバリエーションでは、先生のラジオ講座でのネイティブ出演者7人の、ドミニカ人、メキシコ人、アルゼンチン人、コロンビア人、スペイン人2人、ベネズエラ人達が同じフレーズを発音するのを聞き比べ、その微妙な違いを興味深く聞きました。でもどのスペイン語(カスティーリャ語)が正統というのではなく、先生の「マドリードのスペイン語だけがスペイン語だと思わないように！」とおっしゃったのが印象的でした。

(寺原瑛子)



▲熱心な参加者で満席の会場

## \*\*\*\*\* 文化講座からのお知らせ \*\*\*\*\*

### ♪♪ スペイン音楽サロン ♪♪

#### ザビエル生誕500年記念コンサート第三夜 ザビエル時代のミサ曲

当協会と、日本ルネサンス音楽普及協会共催の3回シリーズの最終回は、教会音楽でした。

1月25日(木)午後7時から東京目黒区の聖パウロ教会で、開催されました。

今回もルネサンス音楽史が専門の慶応大学今谷和徳先生の絶妙なお話で、その時代背景や作曲者の解説などをエピソードも交えてプログラムが進みました。教会のパイプオルガンは当協会会員の小野田良子さん(岩崎良子さん)、ソプラノが櫻田智子さん、カウンターテノールが彌勒忠史さん、テノールが櫻田亮さん、バスが小笠原美敬さんでした。

当時の教会・修道院などで行なわれていたミサの形式に準じた演奏で、アルトのパートに当たるところはカウンターテノールで歌われました。本邦初演と思われる曲(アンチェータ作曲「聖母のミサ曲」)も含めて全5曲が時には、アカペラ(無伴奏—「礼拝堂風」という意味)で、あるいはテノールの導唱で始まり、ビブラートを控えた透き通った歌声が、またパイプオルガンの独奏(ティエント)などが、会場の堂内に響き渡りました。



▲美しい歌声は聴衆を魅了しました



▲ザビエル時代に思いをはせ、会場は満席でした

この時代は、さまざまな文化が花開いた時期でもありましたので、音楽もその様式、内容ともに充実し、後に名を残すような作曲家も多数現れた時代でした。その時代を担ったザビエルに思いを馳せながら、彼が直接触れたであろう音楽に私たちも浸り、心安らぐひと時を過ごせた至福の夕べでした。

なお、この音楽会のシリーズは、スペイン文化省のグラシアン基金の助成を受けて開催されました。



## 絵画教室 アンダルシア地方スケッチ旅行



絵画教室では去る2006年10月16日から30日までの15日間、アンダルシア地方スケッチ旅行を開催しました。前回46号に続き参加者の声をお届けします。

### 一般投稿

## 初めてのスペイン旅行

馬場 信子

昨年3月のある日のこと、突然音楽仲間(横浜スペイン協会の飯塚様)より「スペイン15日間スケッチ旅行」に誘われました。ところが残念なことに、私には「絵どころ」「スペイン」のどちらも縁がありません。しかしながら、その音楽仲間は何度も何度もスペインのすばらしさを私に語るのです。

そんな彼の話を知っているうちに、得意の何でも覗いて見ようという精神が反応し、「そんなすばらしいスペインなら一度行ってみようか」という気になってきたのでした。そしてまた「どうせ行くなら、旅行の主旨であるスケッチはさて置き、せめて『挨拶』『お礼』『数字』くらいは覚えてから行こう」と、年齢のことを考えずに「ラジオスペイン語講座」でスペイン語の勉強をはじめました。

またさらにそれがエスカレートし、どうせならしっかりした生の授業を受けて見ようと、今度は身の程知らずにも某大学が行っている夜間のスペイン語講座に通いはじめました。ところが長い間冬眠状態にあった脳に、スペイン語の会話・文法は難解この上なものでした。そうこうしている内に出発の日がやってきました。

学習途中の言葉に不安はありましたが、「いざスペインへ!」ということになりました。

さて、現地では耳を澄ませど、悲しいかな短期間の学習での語学の力はあまりにも不足していました。そのことを痛感しましたがしかし、不思議なことに慣れるに従い、片言のスペイン語が耳に入って来るようになったのです。そして話の通じた時の嬉しさは、さらなるスペイン語挑戦意欲の励みにもなりました。

澄んだ青い空、忽然と現れる白い村、情熱的なフラメンコ、コルドバのメスキータ、グラナダのアルハンブラ宮殿等は心ときめかせるに充分で、再度スペイン旅行をしたいという気持ちを掻き立てました。

また15日間、11人の旅の仲間は、主旨のスケッチに偏らず、あらゆる体験を気持ちよく共有出来る懐の深さを持っていました。そこで私はそんな皆さんの暖かい思いやりに触れ、贅沢極まりない旅行を満喫したのでした。

おまけは、帰国間際、夫婦の夢であった「ミハス」でのゴルフです。まさに「スペインの代名詞」である、澄みきった空気と青い空、輝く太陽のもとでの、のびのびとしたゴルフは言う事なしの一つのドラマでもありました。

¡Viva España! スペイン万歳!



▲ミハスのゴルフ場にて

## アンダルシア地方スケッチ旅行 15 日間 (その1)

飯塚 劭

絵画教室では去る2006年10月16日から30日までの15日間、教室の指導者でスペインの詩情を描く画家として、毎年スペイン大使館の後援を得て、渋谷東急百貨店で個展を開いている島津豪亮画伯をチームリーダーとした、アンダルシアスケッチ旅行を開催しました。

参加者は教室受講生、横浜スペイン協会会員、島津画伯の知人等々で画伯を含め11名でした。

ところで、今回の旅行のコースは、画伯のモチーフであるスペインの白い村々を訪ねるというものです。そこでこのコースの選定には、画伯はもちろんできるだけ参加者みなさんのあまりご存じない白い村々を訪ねることができることを主眼におきました。また、参加者の平均年齢が高いであろうことを予測し、あまり無理のない旅程を考えねばなりません。そのため、日程もかなりの長期に渡ることになりました。

以下その詳細を記し、今後アンダルシアの白い村々を訪ねる旅をされる方の参考に供したいと思います。

### 2006年10月16日 (月)

午前9時

成田空港第一エアターミナル4階 出発ロビー内エールフランスのチェックカウンターセキュリティーゲート前に集合です。

今回のツアーは比較的高齢者が多く、みなさん約束の時間を守ることはまこときちんとされており、予定時刻よりかなり早くから全員が集まっていました。

搭乗機はエールフランス275便。出発は順調で定刻通りでした。

パリ シャルル・ドゴール空港でエールフランス2634便に乗り換え、マラガに向かいます。ところがこの便は国際線というより、国内線扱いのような便で、まず待合室のあるスペースには何のショップもありません。安全のためと早めにチェックインをしてしまったために、この何もないところで時間をつぶすのに苦労しました。この便はエアヨーロッパと共同運行で、機内サービスはすべて有料でした。

### 2006年10月17日 (火)

午前0時30分 (定刻より15分遅れ)

マラガ パブロ・ピカソ国際空港に到着しました。

ところがここで問題が発生したのです。ツアーの内の一人のスーツケースが出て来ないのです。しかし、このトラブルの対応も、空港に出迎えに来てくれたホテル・ラ・ルナ・ブランカの鈴木さん(ホテル・ラ・ルナ・ブランカのオーナーの一人)が、手際よく処理してくれました。おかげで翌日には無事マラガ空港に届き、ホテルの方が受け取りに行ってくれました。

さてこうしたトラブルのため、結局今回のツアーでベースキャンプになるホテル・ラ・ルナ・ブランカに着いたのは午前2時に近い時刻になっていました。ところが、ホテルでは従業員のみなさんが、寝ずに私たちを待っていてくださり、熱いお茶と和菓子でもてなしてくれたのです。この心遣いに参加者全員大感激でした。この旅を、日本人経営のホテルをベースキャンプにしたことでの良さが、さっそく現れました。

午前8時30分

夜明けの遅いヨーロッパでもこの時刻になると、もう空は明るくなっています。昨夜(?)の不愉快なトラブルのことも忘れ、みなさんすっきりとした気分で夜明けを迎えました。

みなさんは朝食前に個々にホテル近くを散策され、コスタ・デル・ソルの雰囲気を楽しんでおられました。通常のツアーなら今朝からさっそく観光開始といったところでしょうが、このスケッチ旅行はそこが違います。ゆったりしたスケジュールで、今日はフリータイムです。

朝食は、ホテル側のはからいでパティオでとることになりました。青空の下の朝食もまた格別です。



▲ルナ・ブランカの庭でホテルオーナー、スタッフと一緒に

午前10時

今回のツアーはゆったりとしたスケジュールで、しかもかなり多くのフリータイムが用意されています。そこでこのフリータイムを有効に生かすためのオリエンテーションが、ホテル側からありました。



▲ ホテル近くの住宅地

まずホテルのロケーション、そして近くにあるおすすめのシーフードレストラン、さらにスーパーマーケットなどでの買い物について、バスや電車の乗り方など、いわばスペインでの生活についての簡単なレクチャーです。さらに、ホテルでは数々の独自のオプションツアーを用意しており、これらの説明がありました。



▲ ホテルに近い通りはマラガやミハス行き  
のバスが通ります

午後0時10分

ツアー参加者全員で近くのバス停まで行き、バスの行き先を確認したり、地元の人々がどのようにバスに乗るのかをチェックしたりしました。またホテル近くを走る郊外電車の駅に行き、チケットの買い方、電車への乗り方などもチェックしました。

午後5時

ホテル主催の無料スペイン語会話の開催です。ホテルオーナーの一人鈴木さんが、「バルで使える簡単なスペイン語」と題して、講習会を開いてくれました。そしてこの後すぐに、鈴木さんに連れられ、実際にホテル近くのバルに行き、今習ったスペイン語の実践です。

スペイン語が初めての方々も、たった今教わったスペイン語で楽しそうに会話をしておられました。

午後8時

夕食です。ここで昨日失われたスーツケースが、無事に届いたことが報告され、みなさんホッと安堵し、明日からのスケッチの旅に期待をふくらませながら食事をしました。食後は各自、自由な時を過ごしました。

## 2006年10月18日（水）

午前8時

朝食です。今日から2泊3日でカディス県の白い村々を巡り、スケッチをしていく予定です。食事が終わるとみなさん部屋に戻って、スケッチ旅行のための準備をしました。

午前9時

2泊分だけの荷物を持ち、他はホテルに預けたままにして行けるので、みなさん軽装です。ホテルのオーナーの鈴木さん、同じくオーナーの加藤さんをはじめ、従業員の方々に見送られ、いざ出発。

運転手さんの名はペペさんといい、体格の良い、いかにも人の良さそうな方です。

私たちの乗ったマイクロバスは、マラガを通り抜けアンテケーラからは、海岸線から山に向かいます。

午前11時

最初の目的地オルベイラに到着です。この町の小高くなった頂上には、最初イスラム様式の城が建っていましたが、後になってそこにキリスト教徒が城を建立したというものが残っています。

バスは町の下の方に停まり、城のある旧市街へは歩いて登ります。かなりの急勾配ですが、みなさんは頂上の展望に期待を込めて、ゆっくりとしかし力強く登っていきます。



▲ オルベイラの町

途中いわゆる観光客らしき人たちの姿は、まったく見えません。しかしツアー参加者のみなさんは、町の路地や城、それに老人たちが集うための施設など、絵になりそうなところのスケッチや撮影に夢中です。

ところで、この町の面白いところは、主な目印になりそうな角に子供たちが遊んでいる彫像があるのです。また、中央近くに警察学校があり私たちが町の中央部に着いたその時ちょうど休憩時間だったようで、たくさんの生徒さんたちが近くのバルにおりました（私たちもこのバルで昼食を食べました）。

町の人々はやさしく、美しい町という印象もさることながら、住

民のやさしさ、親切さが強く印象に残りました。

午後3時

オルペイラ出発。

午後4時

エスペラ到着。 今回の旅の2番目の目的地です。

ここにはコルテス通りという階段状になった素敵な通りがありました。みなさんスケッチブックをひろげ、島津画伯指導のもとスケッチの開始です。スケッチをされない人たちは、町を散策し写真を撮ったり、バルで乾いたのどをビールで癒したりしてアンダルシアの田舎町を楽しみました。

午後5時30分

エスペラ出発。

午後6時10分

アルコス・デ・ラ・フロンテーラ到着。今日の旅はここまでです。今夜はこの町に宿泊です。(つづく)



▲ エスペラの町、コルテス通り

\* 協会はスペイン語を楽しく学ぶ場を提供しています。そのクラスを紹介します。

## スペイン語教室紹介 マグノリア (Magnolia) 教室

土曜10時半からのスペイン語教室「マグノリア」は、前身の「セレン」から通算して、今年で15周年を迎えました。テキストは「**RÁPIDO, RÁPIDO**」で正確な会話・聞き取り練習を行い、また毎月1回は文学鑑賞日で、詩・物語の解釈・翻訳に取り組み、スペイン文化も学んでいます。(現在El polizón del “Ulises”を翻訳中)

通常、授業中は原則として日本語禁止。その中でも和気あいあいとした雰囲気、栗山由美子先生の熱気あふれる授業で盛り上がります。また文学鑑賞日は、活発な意見交換が交わされます。この日だけはさすがに日本語です。

場所は、海が見える万国橋の会議センターを使用。授業後、地の利を活かして馬車道や桜木町へ足を伸ばし、“美味しい物を食べましょう” 昼食会も、先生を囲んでまた楽しみの一つとなっています。

スペイン語・美味しい物にご興味のある方は、ぜひ一度、授業をご覧になってください。(犀川昌子)



▲ 和気あいあいの教室

## 一 賛助会員各社の会員サービス内容一

◆ 会員証の提示で、下記賛助会員企業より、表記のサービスが受けられます。

賛助会員	住 所	電話番号	会員サービス内容
レストランオリーブ	横浜市西区高島2-5-10	045-441-4996	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ関内本店	横浜市中区相生町1-25	045-662-9474	サングリア1杯無料
Bar Español	カサ・デ・フジモリ関内本店前	045-651-1074	サングリア1杯無料
カサ・デ・フジモリ目黒店	JR目黒駅(東京) 徒歩5分	03-5420-5328	サングリア1杯無料
(有)フレア	鎌倉市大船2-17-8	0467-42-8531	押し花体験費用の割引
日西商事(うさぎのいる島)	横浜市戸塚区品濃町252-3	070-5024-8196	ワイン1杯無料



## //////////////////// 新入会員紹介 //////////////////////

### 柳楽 順子 (Junko Nagira)

横浜市神奈川区 2006年12月20日入会

スペイン語を習い始めて間もない頃、クイズでスペイン優待旅行が当たり、初めてスペインという国へ行って、日本とスペインの異文化を直に感じることができました。

以来、スペインの文化や世界遺産に興味を持つようになり、たびたびスペインへ旅行するようになりました。スペイン語の勉強ばかりでなく、もっとスペインに触れたくて入会しました。

### 佐々木貴子 (Takako Sasaki)

横浜市中区 2007年3月30日入会

大学でスペインやラテンアメリカの習慣や文化・歴史の違いを学び終えましたが、まだまだ語学力不足。会話に磨きをかけ、スペイン語圏の方々とお互いにコミュニケーションを深めていきたいと思っています。そこで協会が行っているスペイン語教室に参加し、レベル・アップしたいと思います。

## \*\*\*\*\* 事務局からのお知らせ \*\*\*\*\*

### ◆2007年度会費納入のお願い

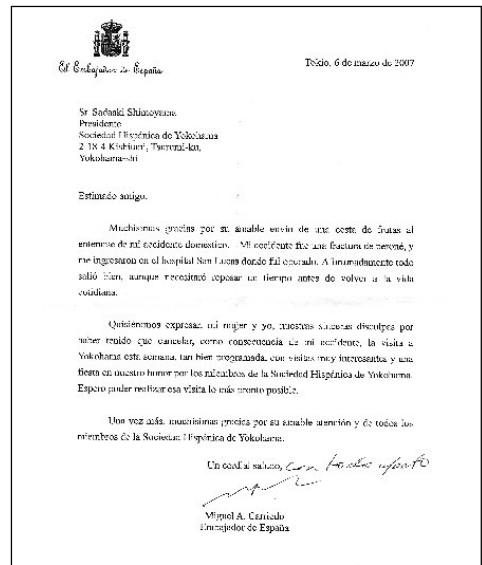
2007年度の会費納入は、同封の振り込み用紙ご使用の上、5月31日迄にお願い申し上げます。

### ◆「ミゲル A. カリエド駐日スペイン大使（横浜スペイン協会名誉会長）歓迎会」は3月7日に予定しておりましたが、スペイン大使の緊急アクシデントにより中止とさせていただきます。あらためて計画し、ご案内申し上げます。

協会では、このスペイン大使アクシデントに対し、お見舞いを差し上げたところ、丁寧な礼状と、可能ならできるだけ早く横浜訪問を実現させたいとのメッセージをいただきました。

### ◆事務所からのお願い

事務局から、計画中の催しにつき会員の皆様にご出欠の返事を返信用はがき、またはファックスなどでお願いすることがあります。返事をお忘れにならないようお願い申し上げます。



＜編集後記＞ 桜の季節がやってきました。今年は暖冬のせいで開花が早くなると言われていましたが、結局は例年よりやや早い程度に落ち着きました。世界的問題の地球温暖化も原因のひとつとなれば彼の地スペインの桜はどうしていることか思いをはせる方も多いことでしょう。またカリエド駐日スペイン大使歓迎会の中止も残念なことでした。一日も早い回復を祈念するとともに、横浜に元気な姿をお見せ下さることを期待いたします。さて今年の総会会場である「驛の食卓」。いろいろなビールがあり、ソフトなものも用意されていますので左党のみならず楽しめると思います。若干不純ですがそれも期待して？ぜひ総会にご参加ください。〈鈴木生雄〉

編集委員 渡邊昭夫 久保田誠志 澤田真人 鈴木生雄 高柳治子 寺原瑛子 宮崎紗伎 山崎宗城 山下幸子 飯塚 劭

\* 投稿寄稿宛先 〒 横浜市戸塚区  
横浜スペイン協会URL <http://www.yokohama-spain.org>

次号の原稿締切は  
7月10日(火)です。  
投稿は800字以内、写真1点をお付け下さい。